



**山梨県**

精神保健福祉センター

平成26年度

# 精神保健福祉センター一報

---

山梨県立精神保健福祉センター

# 目 次

目 次.....	- 1 -
<b>精神保健福祉センターの概要.....</b>	<b>- 1 -</b>
1 沿 革 .....	- 1 -
2 施 設 .....	- 1 -
3 職 員 構 成 .....	- 2 -
4 精神保健福祉センター事業.....	- 3 -
<b>平成 26 年度事業実績.....</b>	<b>- 6 -</b>
<b>I 技術指導・技術援助.....</b>	<b>-6-</b>
<b>II 人材育成.....</b>	<b>-8-</b>
1 精神保健福祉担当者研修会.....	- 8 -
2 地域精神医療研究会 .....	- 9 -
3 精神保健福祉事例検討会.....	- 9 -
4 精神障害者地域移行支援事業.....	- 10 -
<b>III 広報・普及.....</b>	<b>-10-</b>
1 所報、パンフレット等印刷物の発行.....	- 11 -
2 広報視聴覚教材の提供・貸出（ビデオ・図書・パネル） .....	- 11 -
<b>IV 調査研究.....</b>	<b>-11-</b>
1～3 演題 .....	- 11 -
<b>V 精神保健福祉相談.....</b>	<b>-12-</b>
1 精神保健福祉相談件数.....	- 12 -
2 新規所内相談の内訳 .....	- 12 -
<b>VI 組織の育成.....</b>	<b>-15-</b>
1 山梨県精神保健協会 .....	- 15 -
2 山梨県精神障害者家族会連合会（しゃくなげ会） .....	- 16 -
3 山梨県精神保健福祉協力事業所の会.....	- 17 -
4 山梨県精神障害者地域活動支援事業所連絡会.....	- 17 -
5 虹の会（当事者の会） .....	- 18 -
6 絆扉の会 .....	- 18 -
7 ボランティア活動への支援.....	- 19 -
8 精神障害当事者等リーダー会議.....	- 19 -
<b>VII 社会参加促進事業.....</b>	<b>-20-</b>
第 18 回 心の健康を考えるつどい.....	- 20 -
<b>VIII 特定相談指導事業.....</b>	<b>-21-</b>
1 アルコール関連問題に関する相談指導等.....	- 21 -
2 思春期精神保健に関する相談指導等.....	- 21 -
3 薬物関連問題相談指導等.....	- 25 -
<b>IX 心の健康づくり推進事業・自殺予防対策事業.....</b>	<b>-26-</b>
1 自殺予防対策 .....	- 26 -

2 「こころの電話相談室」ーストレスダイヤラー.....	- 31 -
<b>X 子どもの虐待再発予防対策事業.....</b>	<del>- 3 -</del>
1 親子のこころ相談室 .....	- 33 -
<b>XI 精神科救急情報センター窓口運営事業.....</b>	<del>- 3 -</del>
1 概 要 .....	- 34 -
2 精神科救急医療体制（精神科救急情報センター） .....	- 34 -
3 実施状況 .....	- 35 -
<b>XII 精神医療審査会 .....</b>	<del>- 3 -</del>
精神医療審査会に関わる事務.....	- 37 -
<b>XIII 自立支援医療費（精神通院医療）・精神障害者保健福祉手帳交付業務 .....</b>	<del>- 3 -</del>

# 精神保健福祉センターの概要

## 1 沿革

昭和46年4月1日	山梨県立精神衛生センターの設置及び管理に関する条例の公布により、県庁構内西別館に設置される。
昭和46年12月1日	中央合同庁舎（甲府市中央一丁目）に移転
昭和59年12月6日	甲府保健所等合同庁舎（甲府市太田町）に移転
昭和63年3月28日	精神保健センターに改称
平成7年10月17日	精神保健福祉センターに改称
平成9年3月17日	現庁舎 山梨県福祉プラザ（甲府市北新一丁目）に移転

## 2 施設

### 1 場所

山梨県甲府市北新一丁目2-12（山梨県福祉プラザ内）

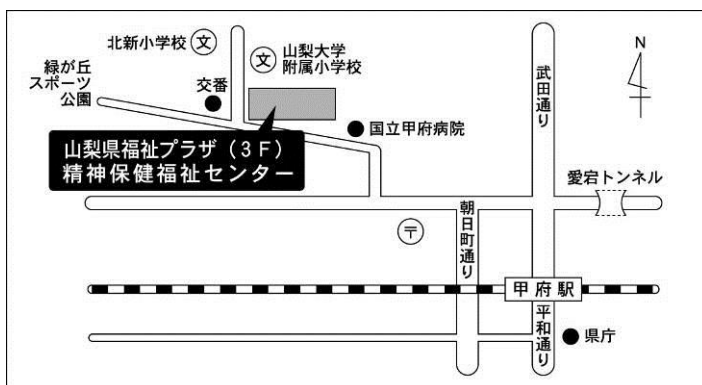
電話 055-254-8644～6

### 2 建物及び面積

鉄筋コンクリート造 4階建（山梨県福祉プラザ）の3階一部

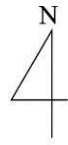
面積 366.9㎡

### 3 センター案内図

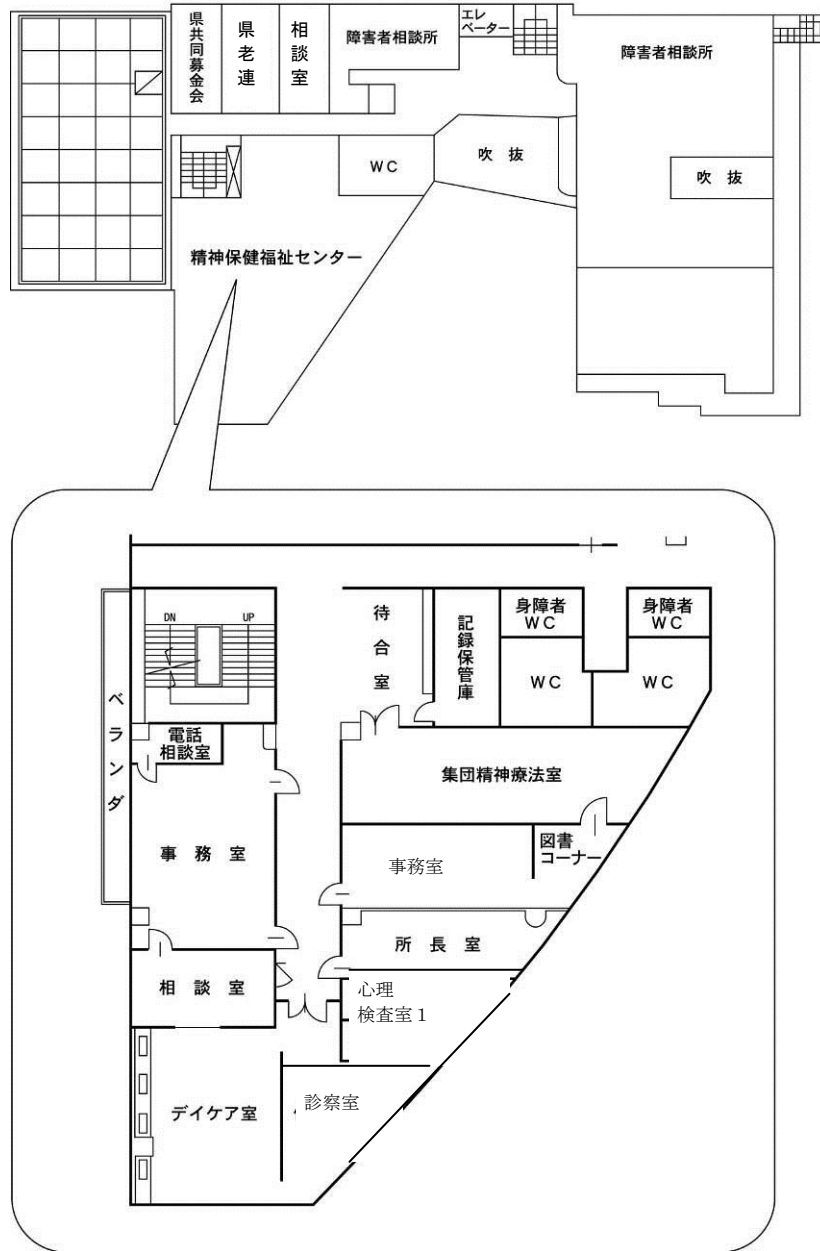


甲府駅北口から  
山梨交通バス約10分  
○上帯那行き  
○HANAZONOホテル行き  
○塚原行き  
県福祉プラザ前下車

# 山梨県立精神保健福祉センター平面図



福祉プラザ3階平面図



## 3 職員構成

職種	医師	一般事務	心理職	ソーシャルワーカー等	保健師	電 話 相 談 員	計
専 任	1		2	4	2		9
非 常 勤 嘱 託		1			2	5	8
計	1	1	2	4	4	5	17

## 4 精神保健福祉センター事業

### 技術指導・技術援助

関係機関・組織・特定グループの行う事業及び関係者に対して専門的立場での技術指導・技術援助を行い、連携を図る。

### 人材育成

- 1 精神保健福祉担当者研修会（精神保健福祉相談員・保健師・精神保健福祉担当者等）
- 2 地域精神医療研究会（県精神保健協会と共催）
- 3 精神保健福祉事例検討会
- 4 精神障害者地域移行支援事業に関する関係者の研修会（精神障害者地域移行支援事業）
- 5 精神障害者社会適応訓練事業研修会
- 6 （再掲）特定相談指導事業に係る研修（アルコール、思春期、薬物に関する研究会等研修事業）
- 7 （再掲）心の健康づくり推進事業・自殺予防対策事業に係る研修
- 8 （再掲）精神科救急及びこころの電話相談に関する研修
- 9 （再掲）精神障害者地域活動支援事業所連絡会（地域活動支援事業所等の職員）

### 広報・普及

- 1 所報、パンフレット等印刷物の発行
- 2 広報視聴覚教材の提供、貸出（ビデオ、図書、パネル）

### 調査研究

- 1 「ひきこもり事例への社会参加支援」  
～コンビニエンスストアを活用した取り組みを通じて～
- 2 「地域における依存症家族支援の課題」  
～アンケート調査の結果と依存症家族教室の実践を通じて～
- 3 「山梨県における自立支援医療（精神通院医療）の動向に関する一考察」

### 精神保健福祉相談

- 1 来所による相談（原則として予約制）、電話相談
- 2 （再掲）「こころの電話相談室」－
- 3 （再掲）薬物関連問題相談
- 4 （再掲）特定相談  
・アルコール関連問題・思春期相談
- 5 （再掲）自殺防止電話相談

## **組織の育成**

- 1 山梨県精神保健協会の育成・連携
- 2 精神障害者家族会の育成
- 3 山梨県精神保健福祉協力事業所の会（職親会）の育成・援助
- 4 山梨県精神障害者地域活動支援事業所連絡会の育成
- 5 虹の会（当事者の会）の育成
- 6 絆<sup>ほんび</sup>の会（家族会）の育成
- 7 ボランティア活動への支援
- 8 精神障害当事者等リーダー会議への支援
- 9 （再掲）アルコール関係組織の育成・連携
- 10 （再掲）山梨県精神障害者社会復帰関係施設連合会の育成・連携

## **社会参加促進事業**

心の健康を考えるつどい

## **特定相談指導事業**

- 1 アルコール関連問題に関する相談指導
- 2 思春期精神保健福祉に関する相談指導
- 3 薬物関連問題相談指導

## **心の健康づくり推進事業・自殺予防対策事業**

- 1 自殺予防対策事業
- 2 「こころの電話相談室」ーストレスダイヤルーの設置
- 3 「こころの健康相談統一ダイヤル」の運営

## **子どもの虐待再発予防対策事業**

- 1 親子のこころ相談室
- 2 関係機関への技術支援及び関係者への研修

## **精神科救急情報センター窓口運営事業**

- 1 救急科救急医療相談窓口
- 2 こころの健康相談窓口
- 3 精神科救急情報センター窓口担当職員の研修

## **精神医療審査会運営及び事務**

精神医療審査会運営及び事務

## **精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療費判定**

精神障害者保健福祉手帳・自立支援医療費（精神通院医療）の判定、交付事務

## 特別事業（再掲）

### 特定相談指導事業

- 1 アルコール関連問題に関する相談指導
  - ・アルコール関連問題に関する特別相談窓口
  - ・広報普及（講演会等）、技術指導、調査研究等
- 2 思春期精神保健福祉に関する相談指導
  - ・思春期コンサルタント事業
  - ・思春期問題ワークショップ
  - ・ひきこもり家族教室・親の会
  - ・ひきこもり青年を対象にした集団援助活動（SST・アクティビティグループ）
  - ・思春期問題連絡会議
  - ・広報・普及（講演会等）、技術指導援助等
- 3 薬物関連問題相談事業
  - ・知識の普及啓発（講演会等）
  - ・薬物関連問題相談専門研修会

### 心の健康づくり事業・自殺予防対策事業

- 1 自殺予防対策事業
- 2 「こころの電話相談室」ーストレスダイヤラーの設置
- 3 「こころの健康相談統一ダイヤル」の運営

### 精神科救急情報センター窓口運営事業

- 1 精神科救急医療相談窓口
- 2 こころの健康相談窓口
- 3 精神科救急情報センター窓口担当職員の研修



# 平成26年度 事業実績

## I 技術指導・技術援助

### 1 年間実績

技術指導・技術援助は、その対象とする関係機関、組織・特定グループの行う事業（企画・運営・実施等を含む）および関係者に対して、専門的立場から参加し指導及び援助（特に区別しない）を行うことであり、全国精神保健福祉センター所長会が定義づけている。

(平成26年度)

	技術指導・援助 (延件数)											計	
	老人精神保健	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	思春期	心の健康づくり	ひきこもり	自殺関連	犯罪被害	災害		その他
保健所		2					2		7				11
市町村				1			1	2					4
福祉事務所													
医療施設		1				6	8					2	17
介護老人保健施設													
障害者支援施設													
社会福祉施設													
その他(含む学校)		15				13	6					52	86
実施件数		18		1		19	17	2	7			54	118

### 2 関係機関に出向いて実施した内容

県下の関係機関からの要請に応じて、実施した内容は、次の通りである。

#### 1) 保健所

事業名	対象者	従事者	内容	参加者数
各保健所地域セーフティネット連絡会議(自殺予防対策事業)(計7回)	各関係者	保健師、精神保健福祉士	参画・助言等	延べ116人
いのちをつなぐ青木ヶ原ネットワーク会議(自殺予防対策事業)(会議1回)	委員(各関係者)	精神保健福祉士	参画・助言等	延べ32人

## 2) 医療施設等

事業名	対象者	従事者	内容	参加者数
北病院思春期病棟・事例検討会(計6回)	北病院思春期病棟に係る職員	医師	事例検討会指導助言	60人
こころの発達総合支援センター症例検討会(計2回)	センター職員	医師	症例検討会指導助言	40人

## 3) その他

事業名	対象者	従事者	内容	参加者数
山梨県病弱虚弱教育研究協議会	教員、関係者	医師	講義	60人
教育相談における実践力を養う研修会	教員	医師	講義、事例検討会	20人
専門的な困難ケース解決のためのアドバイザー派遣事業	女性相談所職員	医師	講義	10人
NPO法人いのちの電話相談員養成講座	いのちの電話相談員	医師	講義	28人
相談従事者研修会	相談支援事業所職員	精神保健福祉士	講義	50人
特別支援教育専門研修会	教員	臨床心理士	講義	30人
県民生活支援センター職員研修会	県民生活支援センター職員	臨床心理士	講義	20人
障害者職業生活相談員資格認定講習会	障害者職業生活相談員	精神保健福祉士	講義	40人
地域精神家族会総会	当事者、家族、精神福祉関係者	医師、精神保健福祉士	講義	40人

## 3 協議会等委員

(1年間実績には含まれない)

協議会名	参加者	回数
精神科救急事業連絡調整部会	医師	1
精神障害者訪問支援モデル推進事業評価検討委員会	医師	5
子ども・若者支援地域協議会	心理職	1
子どもの心の診療支援連携会議	医師	1
子どもの心の問題に対する支援・医療等に係わる検討会	医師	1
精神病院実地指導	医師	6
山梨県医療観察制度連絡協議会	医師、精神保健福祉士	1
精神障害者主張大会実行委員会	精神保健福祉士	4
精神障害者スポーツ大会実行委員会	精神保健福祉士	2
精神障害者スポーツレクリエーション大会実行委員会	精神保健福祉士	2

## Ⅱ 人材育成

### 1 精神保健福祉担当者研修会

県における精神保健福祉担当者、従事者が地域精神保健福祉業務・事業を行う上で必要な情報共有や技能習得、職員の資質の向上を目指すことを目的に開催した。平成26年度開催状況は次のとおりである。

日 時	内 容	参加者数
平成26年4月30日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意見交換</li> <li>・精神保健福祉担当者研修会のアンケート結果報告</li> <li>・今年度の研修会内容と日程について</li> <li>・各種事業の役割について</li> </ul>	16人
平成26年7月3日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意見交換</li> <li>・「精神保健福祉法改正を踏まえて現状や課題等について」</li> <li>○情報交換</li> <li>・入院届及び定期病状報告書の作成に関する留意点について</li> </ul>	29人
平成26年10月2日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意見交換</li> <li>・「精神保健福祉活動における関係機関の連携のあり方について」 話題提供者：中央市・昭和町障がい者相談支援センター「穂のか」 相談支援専門員 阿諏訪勝夫氏 中北保健福祉事務所峡北支所 副主幹 弘田恭子氏</li> <li>○情報交換</li> <li>・精神科救急医療事業について</li> <li>・社会適応訓練事業の事業費の取り扱いについて</li> </ul>	31人
平成26年12月12日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修会</li> <li>・「北病院と保健所との今後の連携のあり方について」 話題提供者：独立行政法人山梨県立病院機構山梨県立北病院 精神保健幹 霜村京子氏</li> <li>○情報交換</li> <li>・障害保健福祉関係主管課長会議の報告</li> <li>・平成27年度予算について</li> </ul>	20人
平成27年2月3日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事例検討会</li> <li>・「希死念慮がある方の医療への繋ぎ方について」 話題提供者 富士・東部保健福祉事務所 技師 遠藤由美氏</li> <li>○情報交換</li> <li>・精神科救急情報センター24時間化について</li> <li>・社会適応訓練事業について</li> <li>・精神障害者地域移行について</li> </ul>	16人
平成27年3月5日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意見交換</li> <li>・各種研修会の報告</li> <li>○情報交換</li> <li>・社会適応訓練事業について</li> <li>・来年度の取り組みについて</li> </ul>	16人

## 2 地域精神医療研究会

精神保健福祉に関わる関係者が、講演会、事例検討会、話題提供等をとおして情報交換し、知識の習得や研鑽を図ることを目的に精神保健協会との共催で、第2又は第4木曜日（原則）の午後3時～5時に開催した。平成26年度開催状況は次のとおりである。

開催年月日	内 容	話題提供者・講演者	参加者人数
平成26年 5月8日（木）	平成26年度山梨県精神保健福祉事業と精神保健福祉センターの事業について	障害福祉課 心の健康担当 主査 三神 恭子 氏 副主査 木村 由美 氏 技師 竹川 彩加 氏 精神保健福祉センター 副主幹 秋山 盛治 氏	10人
6月12日（木）	精神保健福祉法改正について ～保護者制度・医療機関の役割～	精神保健福祉センター 主任 芦沢 茂喜 氏	33人
7月24日（木）	精神障害者における地域移行支援事業の概要と現状について	社会福祉法人 八ヶ岳名水会 相談支援事業所らいむ 相談支援専門員 長田 和也 氏 中北保健福祉事務所 峡北支所 技師 谷脇 由紀恵 氏 韮崎東ヶ丘病院 ケースワーカー 深澤 礼子 氏 北杜市役所 福祉課 相談支援専門員 鈴木 和代 氏	45人
9月9日（木）	精神科病院見学と危険ドラッグの現状と問題点について	山梨県立北病院 副院長 宮田 量治 氏 主任看護師 齋藤 永子 氏 看護師 一瀬 翔 氏	46人
10月24日（金）	パーソナリティ障害と認知行動療法について②	公益財団法人リヴィーズ HANAZONO ホスピタル 副院長 八十島 講二 氏	63人
平成27年 1月24日（木）	災害時における精神科危機管理の対応について ～2014年大雪害を踏まえて～	山梨県精神保健福祉士協会 会長 千野 由貴子 氏 南アルプス市役所 福祉総合相談課 主査 中澤 桂太 氏	28人

## 3 精神保健福祉事例検討会

当研修会は、地域精神保健福祉活動のさらなる推進及び充実のために、事例検討を通して関係職員の資質向上、関係機関の連携及び協力を図ることを目的に開催した。その内容、開催状況は次のとおりである。

尚、今年度から精神保健福祉（母子・精神）事例検討会については、地域の関係機関の職員が関わっている事例を当センターの所内研修会に持ち込み、その場で事例検討会を開催し、事例の見立てと今後の支援方針について検討した。

### ○児童・思春期事例検討会

日 時	人 数
平成26年 5月28日（水）	24人
平成26年 7月23日（水）	24人
平成26年 9月24日（水）	13人
平成26年11月26日（水）	19人
平成26年12月26日（水）	18人

不登校・学校不適應等の事例について、小・中・高校の教諭・養護教諭、教育・保健・医療・福祉の関係職員により事例検討の持ち方自体についても考察するとともに、生活場面で観察された行動からこどもの理解を深め、具体的な支援方法についても検討した。

#### 4 精神障害者地域移行支援事業

精神科病院において条件を整えば退院可能な入院患者（以下「社会的入院患者」という。）の退院を促進し、地域で安心して生活できるようにするため、その支援の中心となるピアサポーターの知識・技術の習得のための研修を行い、事業の円滑かつ効果的な推進を図ることを目的とし実施した。

日時／場所	内 容	参加者数
平成26年7月28日（月） 防災新館301会議室	第1回ピアサポーターフォローアップ研修会 「ピアサポーターの活動について」 講師 聖学院大学 人間福祉学部 人間福祉学科 教授 相川章子 先生	38人
平成27年3月9日（月） 山梨県立博物館 生涯学習室	第2回ピアサポーターフォローアップ研修会 「ピアサポーターの活動について」 講師：山梨県立大学 人間福祉学部 福祉コミュニティ学科 准教授 大塚ゆかり 先生	31人

#### 5 精神障害者社会適応訓練事業研修会

社会適応訓練事業は、平成24年度に精神保健福祉法の規定から削除され、県単独事業として取り組んでいる。本研修は、精神障害者の社会復帰や就労に関する関係機関の連携を強化し、就労の場を通して、精神障害者の自立と社会参加も促進を図ることを目的として実施した。

日 時	場 所	参加者	内 容
平成27年 2月26日（木）	福祉プラザ4 階会議室	51人	「精神障害者の就労支援について考える ～様々な就労のかたちから～」 (1) 山梨県社会適応訓練事業について (2) 話題提供 ①「社会適応訓練事業利用から障害者雇用へ」 渡辺 皇二氏 訪問指導者 障害者就業・生活支援センター 陽だまり 坂本 誠氏 ②「社会適応訓練事業利用から就労継続A型事業 所利用までの支援・連携について」 訪問指導者 大泉共同作業所 自遊工房 奥倉 照子氏 ③「就労継続B型施設利用から障害者雇用へ」 高部 健一氏 支援者 障がい者就業・生活支援センター ありす 貴家 清美氏 (3) グループワーク「精神障害者の就労について」 コーディネーター 精神保健福祉センター 副主幹 秋山 盛治 助言者 精神保健福祉センター 所長 小石 誠二

## Ⅲ 広 報 ・ 普 及

### 1 所報、パンフレット等印刷物の発行

所報は精神保健福祉センターの1年間の事業実績を収録し、ホームページに掲載した。その他、パンフレット・リーフレットを作成し配布している。

### 2 広報視聴覚教材の提供・貸出（ビデオ・図書・パネル）

## Ⅳ 調 査 研 究

平成26年度は、以下の3つの演題に基づいて調査研究を行い、結果報告については平成26年度当センターの研究紀要に掲載している。

### 1 演題「ひきこもり事例への社会参加支援」

～コンビニエンスストアを活用した取り組みを通じて～

○趣旨・内容

・当センターが始めたコンビニでの取り組みについて報告し、ひきこもり青年に対する社会参加支援について考察した。

### 2 演題「地域における依存症家族支援の課題」

～アンケート調査の結果と依存症家族教室の実践を通じて～

○ 趣旨・内容

・平成25年度より当センターで取り組んだ依存症家族教室の実績の報告と保健所・市町村は相談を受けているものの、支援の仕方に難しさを感じていることから、家族教室で使用したCRAFTは有用であると考えられ、そのCRAFTを活用した実践報告と市町村等への周知について検討した。

### 3 演題「山梨県における自立支援医療（精神通院医療）の動向に関する一考察」

○ 趣旨・内容

・本研究は自立支援医療（精神通院医療）受給者の動向を調査し、山梨県において地域生活を送る精神障害者の実態を分析した。

## V 精神保健福祉相談

### 1 精神保健福祉相談件数

( ) 内は25年度

相談種別	区 分	26年度新規件数	繰越件数	延 件 数	総 計
所内相談	一般相談	13 (6)	12 (18)	105 (141)	1,208 (1,363)
	心の病い相談	65 (54)	116 (127)	1,103 (1,222)	
事務所 電話相談	一般相談	124(156)	400(492)	524(648)	1,592 (1,191)
	心の病い相談	400 (111)	668(432)	1068(543)	
ストレス ダイヤル	一般相談	59 (11)	1,472(1,123)	1,531(1,134)	2,041 (1,606)
	心の病い相談	159 (111)	351(361)	510(472)	

所内相談の新規の相談件数は78件（一般相談13件、心の病相談65件）であり、思春期に係わる相談や自殺関連相談等、継続しての相談を行うことが多くなっている。精神保健福祉相談は直接支援から関係機関と連携した間接支援をより意識した支援となっている。

平成26年度より「精神科救急情報センター」が「精神科救急受診相談センター」として24時間化され山梨県から委託された。それに伴い、「精神科救急情報センター“心の健康相談窓口”」は「夜間ストレスダイヤル」として平成26年から委託され、毎週木曜日午後4時～8時まで電話相談が行われる事になった。ストレスダイヤルの電話相談の内訳は、昼間と夜のストレスダイヤルの合計件数である。また、心の健康づくり推進事業に再掲している。

一般相談は、内因性および器質性といわれる疾患にかかわる相談である。心の病い相談は、一般相談以外のもので、不登校・学校不適應などの相談から対人関係に関わる相談、摂食障害、アディクション、あるいは一過性のストレス状態など、より広い状態を含める。

### 2 新規所内相談の内訳

#### 1) 月別件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件 数	13	7	4	3	5	9	6	5	10	4	5	7	78

#### 2) 内容・診断別件数

保育・幼稚園や学校にかかわる相談が多い。

相談内容・診断名	件 数
<b>保育・幼稚園や学校にかかわる相談</b>	<b>25 (32.1%)</b>
不登校・不登園	8
学校不適應	17
<b>行動の問題にかかわる相談</b>	<b>5 (6.4%)</b>
自傷行為	1
家庭内暴力	1
反社会的行動	2

相 談 内 容 ・ 診 断 名		件 数
	摂食障害	1
性格や癖にかかわる問題		7 (9.0%)
	抑うつ状態	2
	情緒不安定	1
	強迫・こだわり	4
	選択性緘黙	2
対人関係の問題にかかわる相談		9 (11.5%)
	家族関係について	2
	友人・異性との関係について	1
	対人関係	4
	PTSD	2
ひきこもりにかかわる問題		11 (14.1%)
	ひきこもり	11
	対人不安	0
アディクションにかかわる相談		9 (11.5%)
	薬物	0
	ギャンブル	4
	アルコール	5
受診・入院・入所・福祉制度にかかわる相談		7 (9.0%)
	社会復帰・制度について	2
	受診・入院相談	4
	精神疾患について	1
育児不安・困難・虐待にかかわる相談		1 (1.3%)
	虐待	1
自殺関連相談		4 (5.1%)
	自殺企図・希死念慮	2
	自死遺族相談	2
計		78

### 3) 処置別件数

処置	継続ケース	助言指導	医療機関紹介等	そ の 他	合 計
件 数	41	17	10	10	78
割合 (%)	52.6	21.8	12.8	12.8	100.0

### 4) 来談者別件数

来談者	本 人	配 偶 者	父	母	子	兄 弟	親 戚	市 町 村 関 係 者	教 育 関 係 者	職 場 関 係 者	そ の 他	計
来談者件数	49	4	12	45	5	6	2	1	3	0	1	128



(複数)

5) 保健所管内別件数

保健所	中北	峡北支所	峡東	峡南	富士・東部	県外	その他	計
件数	33	15	18	3	7	2	0	78
割合(%)	42.3	19.2	23.1	3.8	9.0	2.6	0.0	100.0

6) 年齢別件数

年齢	10歳未満	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60歳以上	不明	計
新規相談件数	0	33	12	14	6	7	6	0	78
割合(%)	0.0	42.3	15.4	17.9	7.7	9.0	7.7	0.0	100.0

所内相談の内容別件数では、不登校や学校不適應についての相談が従来通り多く、年齢も小学生から大学生年齢と幅がある。ひきこもりや行動、情緒の問題にかかわる相談も多い。また、自殺関連の相談も増えてきている。

新規所内相談の処置件数では、約6割が継続ケースであり、他機関との連携やより専門性の高い支援が必要なケースが増加している。

# VI 組織の育成

組織育成として山梨県精神保健協会、山梨県精神保健福祉協力事業所の会、精神障害当事者等リーダー会議などに関わっている。平成26年度実施状況は次のとおりである。

## 1 山梨県精神保健協会

### 1) 沿革

山梨県精神保健協会は、昭和42年7月27日に山梨県臨床心理懇談会、山梨県精神病院協会を母体に精神保健思想の普及向上を図ることを目的に発足した。

発足当時、事務局は本庁公衆衛生課（現健康増進課）に置かれたが、昭和46年4月に精神衛生センター（現精神保健福祉センター）の設置とともにセンター内に移された。

昭和62年に創立20周年にあたり、会員主体の活動を活発化するため、協会組織の検討を行い、常任理事88人、理事48人から理事23人と改正した。

平成4年に山梨県精神衛生協会から山梨県精神保健協会に名称を変更した。

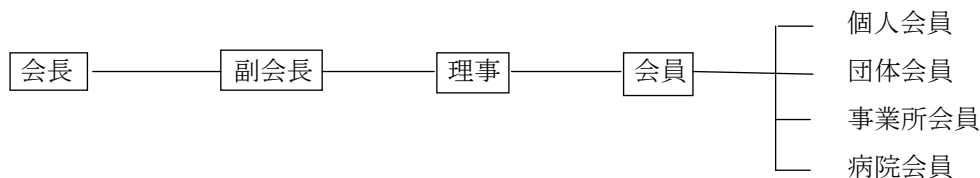
平成16年には、理事の選出団体の改正と7委員会から3委員会へ統合を行った。

### 2) 組織

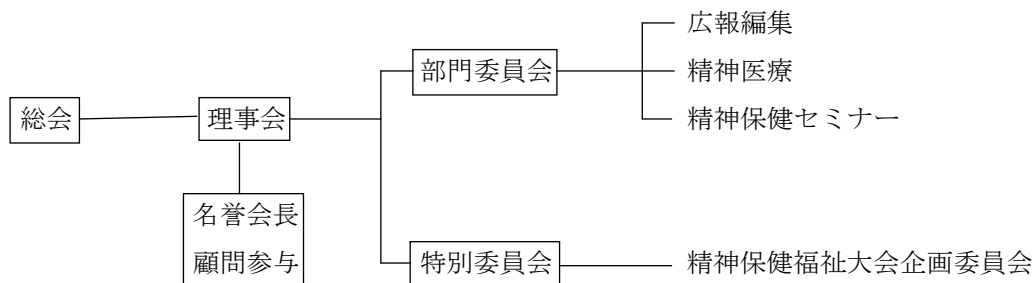
全国精神保健福祉連絡協議会の下部組織として位置づけられている民間団体である。会員は、精神保健、医療、福祉、教育、更生保護、警察、矯正、産業、労働、広報等、幅広い分野の関係者で構成しており、会の運営については、個人・団体会員の会費で活動を行っている。

平成25年度の会員数は、個人会員393人、団体会員31団体、事業所会員5所、病院会員9病院である。

#### ア、系統組織



#### イ、機能組織



### 3) 事業実施状況

#### (1) 会議に関するもの

##### ① 定期総会

日 時：平成26年5月29日（木） 午後1時30分から4時00分 参加者 30人

記念講演：精神保健福祉の動向 ～全国や山梨県内の動きを振り返りこれからを考える～

講 師：健康科学大学 福祉心理学科 准教授 池谷 進氏

②理事会 5回

③部門委員会

広報編集委員会 3回

精神保健セミナー委員会 4回

精神医療部門委員会 1回

④山梨県精神保健福祉大会企画委員会 1回

(2) 普及啓発に関するもの

①第61回山梨県精神保健福祉大会

日 時：平成26年11月27日（木） 午後2時から午後4時

場 所：山梨市民会館 3階 大集会室

参加者：126名

内 容：テーマ 「やさしさでつくる 共生社会」

・式典 精神保健福祉事業功労者知事表彰、山梨県精神保健協会会長表彰

・記念講演 演題「子育て today」

講師 山梨県立精神保健福祉センター 所長 小石誠二 氏

②精神保健セミナー学習会

「子育て」について焦点を当てスタッフ間で学習会を開催した。

山口委員長からの話題提供後、参加者同士のディスカッションを行った。

回	日時	テーマ	参加者
第1回	平成26年 7月 7日（月）	子どもの発達過程と社会	10名
第2回	9月 9日（月）		7名
第3回	11月10日（月）	親の支援、親のあり方	7名
第4回	平成27年 2月 2日（月）		10名

③地域精神医療研究会 6回（Ⅱ人材育成を参照）

④機関誌「せいしんほけん」第50号発行

## 2 山梨県精神障害者家族会連合会（しゃくなげ会）

### 1) 沿革

山梨県精神障害者家族会連合会（しゃくなげ会）は昭和47年7月に結成された。昭和48年には第1回県連合会総会、第1回家族大会が行われ、各保健所管内家族会（措置患者家族）により組織された。その後昭和50年の第4回総会を契機として、市町村単位家族会づくりに力を入れ、県下56市町村中30市町村に家族会が組織された。

昭和56年度より病院家族会（4か所）が県連合会に加入、その後県内の精神病院に順次設立され、現在県下9病院家族会が加入している。

## 2) 活動状況

現在、県連しゃくなげ会は各地域家族会と9つの病院家族会、1つの精神障害当事者会家族会で組織されている。

県連の活動は、陳情行動、研修会・講演会の実施、県からの委託事業による社会参加促進のための情報誌の発行など、年々幅広い活動を行ってきた。

また、各傘下の家族会でも、研修会・講演会が実施されている。しかし、県連合会をはじめ、どの家族会も高齢化、家族会会員の減少、家族会への参加率の減少等、これからどのように会を発展させていけばいいのかが課題になっており、これは、全国の家族会でも共通した課題となっている。

県連は19年度、精神保健福祉センターから事務局を移管し独立を果たした。当センターでは側面的な支援、組織育成を行ってきた。

## 3 山梨県精神保健福祉協力事業所の会

### 沿革

山梨県精神保健福祉協力事業所の会は、障害をもつ人も、もたない人も共に支えあいながら働ける職場や社会の実現を目指し、精神障害者社会適応訓練事業の協力事業主を中心に平成11年9月20日に結成された。

就労体験を通じての精神障害者の自立と社会参加の促進を目的に事業を行っている。

(Ⅱ人材育成を参照)

## 4 山梨県精神障害者地域活動支援事業所連絡会

県内の作業所は、昭和62年4月の開設を初めとして平成18年度に1か所が開設して16か所となり、自立支援法が施行され、全ての作業所が地域活動支援センターⅢ型等に移行し、その後も形態を変えながら現在に至っている。連絡会は、精神障害者の自立と社会参加の促進を目指して、職員がお互いに情報を交換し学び合う場・支えあう場・研修の場として開催し、施設職員の組織化と自主的な活動に向けて支援を行っている。平成23年度より、会の名称が変更となった。

日 時	内 容	参加者数
平成26年 6月2日(月)	「平成26年度リーダー事業所の選定と今後の方向性について」	13人
12月1日(月)	「就労支援事業所かしのみの見学と意見交換」	10人
平成27年 3月2日(月)	「平成26年度の振り返りと平成27年度の年間計画について」	15人

## 5 虹の会（当事者の会）

虹の会は昭和55年にセンターデイケアの卒業生として結成され、平成13年度にはセンターデイケアを終了したメンバーの多くが虹の会に入会して活動している。新規入会者については幅広く門戸を開いて受け入れを行っている。

《活動日》 グループ活動：第2火曜日 午前中  
 話し合い：第4金曜日 午後1時～3時  
 音楽会：話し合い終了後実施  
 自主活動：4月のみの活動で終了

月	グループ活動			音楽会		話し合い		自主活動・その他		
	日	内 容	人	日	人	日	人	日	内容	人
4月	8日	新職員さんとの昼食会	6	18日	3	25日	4	17日	イオンモール甲府昭和店散策	2
5月	20日	食事会（デニーズ）	4	16日	3	23日	4			
6月	10日	食事会（かつぱ寿司）	4	20日	2	27日	4			
7月	8日	リニア見学センター	中止	18日	1	25日	4			
8月	12日	食事会（サイゼリア）	3			22日	3			
9月	3日	食事会（サイゼリア）	3	26日	1	26日	3			
10月	21日	食事会（スシロー）	5	24日	2	24日	2			
11月	11日	食事会（ステーキけん）	4	28日	2	28日	2			
12月	10日	食事会（小作）	3	26日	5	26日	5			
1月	13日	初詣と食事会	4	23日	3	23日	3			
2月	10日	不老園の見学と食事会	3	27日	3	27日	2			
3月	10日	食事会（バイキングさくら）	4	27日	3	27日	3			

## 6 絆扉の会

虹の会メンバー家族の他、当センターへ来所相談を継続している精神障害をもつ者の家族への援助の場として毎月開催されている。現在は、各家族の日頃の悩みについて話したり、情報を共有したりすることで、「ここに来れば話ができる」、「こういう話は他ではできない」という声が聴かれ、ピアサポートという側面が目立っている。

日 時	内 容	人数	月 日	内 容	人数
4月9日	総 会	5	10月8日	定例会	3
5月14日	定例会	5	11月12日	定例会	4
6月11日	定例会	3	12月10日	定例会	4
7月9日	定例会	4	平成27年 1月14日	お休み	0
8月13日	お休み	0	2月18日	定例会	4
9月10日	定例会	4	3月11日	定例会	4

## 7 ボランティア活動への支援

県内において精神保健等のボランティア活動を実施しているグループに対して、必要に応じて技術支援を行なっている。

## 8 精神障害当事者等リーダー会議

平成14年度から県内の各病院・施設等に所属している当事者の代表が集まり、これからの地域精神保健福祉に関する意見や要望を話し合う会として精神障害当事者等リーダー会議を開催している。会議はメンバーが進行し、県や関係団体主催事業への実行委員の選出や、リーダー会議が主催する勉強会についての話し合い等、さらなる自主性の向上に向けて活動している。

日 時	内 容	参 加 者 数
平成 26 年 5 月 13 日 (火)	〈全体会①〉 ・部会員選出、活動内容について	当事者15人 スタッフ4人 計 19人
平成 26 年 7 月 22 日 (火)	〈全体会②〉 ・部会員選出、研修会について	当事者11人 スタッフ6人 計 17人
平成 26 年 10 月 28 日 (火)	〈研修部会①〉 ・内容検討	当事者6人 スタッフ1人 計 7人
平成 27 年 1 月 20 日 (火)	〈全体会③〉 ・今年度の振り返り、勉強会について ・来年度のリーダー会議について	当事者10人 スタッフ6人 計 16人
平成 27 年 2 月 24 日 (火)	(研修部会②) ・勉強会の発表者、役割分担の確認など	当事者6人 スタッフ1人 計 7人
平成 27 年 3 月 12 日 (木)	(勉強会) 「楽しく生きよう！明日への希望編～命の尊さ～」 開催	参加者33人

## Ⅶ 社会参加促進事業

### 第19回 心の健康を考えるつどい

- 1) 目的 県民を対象に、日ごろから心の健康について考える機会として開催するとともに、障害のある人やない人、子どもから高齢の人たちまで様々な立場の人々が、家庭や地域でよりよく生活ができるよう精神保健福祉に対する県民の理解を深めること、互いに尊重し合い明るく暮らせる社会づくりの促進。
- 2) 日時 平成26年11月27日（木） 午前10時30分～午後1時
- 3) 会場 山梨市民会館 3階 大集会室
- 4) 内容 ○ステージショー（各病院・地域の施設の利用者による自由発表）  
○各病院・地域の施設による出店（自主製品の販売）

#### 販売・展示 出展団体紹介

- 病院・診療所  
三生会病院、住吉病院、韮崎東ヶ丘病院、HANAZONOホスピタル、富士吉田診療所、山角病院、山梨厚生病院
- 社会復帰施設等  
市川三郷町精神障害者デイケア、（社）ぶどうの里塩山授産園、甲斐志麻の里ファーム、就労継続支援B型事業所ドリーム、就労支援事業所かしのみ、就労支援事業所ひらしな、都留市地域活動支援センターむつみの家

#### 販売・展示品紹介

- 展示販売品  
焼菓子（クッキー・パウンドケーキ等）・フルーツポンチ・チヂミ・手作りジャム・コーヒー・紅茶・ココア・しいたけ・手工芸品・和紙工芸・織物・陶芸品・雑貨・小物類 ほか

#### ステージショー

- 発表グループ  
住吉病院デイケア「そよかぜハーモニー」、回生堂病院「わっしょい回生堂」、  
韮崎東ヶ丘病院「デコちゃん」、就労継続支援B型事業所ドリーム「ドリーマーズ」

※平成27年度以降は、「山梨県障害者芸術・文化祭」に統合する予定

## Ⅷ 特定相談指導事業

### 1 アルコール関連問題に関する相談指導等

#### 1) 広報普及

当センターでは、昭和53年から国に先駆けて酒害相談指導事業を実施し、昭和54年からは、国の特定相談事業の一環として「アルコール関連問題に関する相談事業」や「アルコール家族教室」を中心に行ってきたが、近年県内のアルコール医療施設の充実や自助グループ活動の活性化により、相談の役割は専門医療機関等が中心となっている。このような現状を踏まえ、センターにおけるアルコール関連対策は、知識の普及啓発を目的に一般県民を対象に講演会を開催した。

#### (1) 専門家等によるアルコール乱用防止に関する講習会

日 時	場 所	対 象	内 容	参加者数
平成26年 7月4日（金）	大月市立 猿橋中学校	全校生徒 教職員	講義「アルコールの危険性について」 講師 国立大学法人山梨大学 教育人間科学部障害児教育講座 教授 小畑 文也 先生	250人
平成26年 10月28日（火）	甲斐市立 双葉中学校	中学1年生 教職員	講義「飲酒・喫煙の危険性について」 講師 公立大学法人山梨県立大学 准教授 山中 達也 先生	156人

#### (2) アルコール保健講演会

日 時	場 所	対 象	内 容	参加者数
平成26年 8月31日（日）	山梨県立大学 飯田キャンパス	一般県民 医療、行政 教育関係者	講演「飲酒運転防止 それを知らないと 防げないアルコールの基礎知識」 講師 特定非営利活動法人 ASK (アルコール薬物問題全国市民協会) 代表 今成 知美 先生	65人

### 2 思春期精神保健に関する相談指導等

思春期に対する当センターの取り組みは、一般の精神保健福祉相談としても対応しているが、厚生省補助事業「心の健康づくり推進事業」（昭和60年6月18日付）および厚生省保健医療局長通知「精神保健センターにおける特定相談事業要領について」（昭和64年1月5日付）に基づき、思春期コンサルタント事業として実施されている。

#### 1) 思春期精神保健福祉相談（原則として予約制）

##### (1) 定例相談（思春期コンサルタント事業）

小児科医による相談（毎月1回～2回）、当センター内で実施。

精神科医による相談（毎月1回～2回）、当センター内で実施。

	年度内新件数	繰越件数	延 件 数
相 談 件 数	30	26	97

##### (2) 所内相談（精神保健福祉相談）

月曜日～金曜日の午前9時～午後5時まで、当センターで実施。

	年度内新件数	繰越件数	延 件 数
所 内 相 談	30	35	477

※なお統計上、思春期とは10歳以上20歳未満をさしている。



## (3) 新規所内相談内容別件数

相談内容・診断名		件数
学校等にかかわる相談		24 (30.8%)
	不登校・不登園	8
	学校不適応	16
行動の問題にかかわる相談		3 (3.8%)
	自傷行為	1
	家庭内暴力	0
	摂食障害	1
	反社会的行動	1
性格や癖にかかわる相談		1 (1.3%)
	抑うつ状態	0
	情緒不安定	1
	強迫・こだわり	0
	その他	0
対人関係の問題にかかわる相談		1 (1.3%)
	家族関係について	0
	友人・異性との関係について	0
	対人関係	0
	PTSD	1
ひきこもりにかかわる相談		0 (0.0%)
	ひきこもり	0
	対人不安	0
計		29

※ P 12 精神福祉相談・新規所内相談の内訳より抜粋

## (4) 相談援助内容

相談援助内容	件数
継 続	23
助 言 指 導	3
紹 介	3

## 2) 集団支援

### (1) ひきこもり青年を対象としたSST（生活技能訓練）グループ

開催日時	毎月第1, 3月曜日 午後2時～3時
場所	精神保健福祉センター 心理検査室2
対象	青年期に相応の社会参加や社会交流の機会を持つことができない、あるいはその機会を回避しようとするケースのうち、統合失調症と中等度以上の精神発達遅滞を背景とするケースを除き、当センターで個人面接を継続しており、SSTの参加について同意を得られる者。
スタッフ	臨床心理技術者、グループトレーナー
実施回数	23回
実人数	5人
延人数	42人

### (2) 「ひきこもり青年を対象としたアクティビティグループ」

実施回数 13回

日時	活動内容	参加人数(延べ)
H26.4.2	話し合い	5人
H26.5.26	陶芸(一輪挿し)	7人
H26.6.23	講義(ビジネスマナー)	8人
H26.7.28	見学(県立科学館)	5人
H26.8.18	料理	3人
H26.8.25	作業体験(パソコン操作)	3人
H26.9.26	運動(バトミントン)	6人
H26.9.30	作業体験(皿洗い)	1人
H26.10.10	コンツェルト・エスペーロ イベントの準備	3人
H26.11.17	美術(ランプシェードの製作)	4人
H26.12.22	茶道	5人
H27.1.26	初詣	6人
H27.2.16	作業体験(野菜の袋詰め)	5人
計		61人

### (3) 「ひきこもり家族教室」

「ひきこもり青年」の相談の増加に伴い、平成9年度から家族教室を開催している。

回	日時	内容	参加人数
1回	平成26年6月5日(木)	第1回「ひきこもり」の理解と対応① ・オリエンテーションと自己紹介 ・ひきこもりの現状 講師 精神保健福祉センター所長 小石 誠二 ・意見交換	5人
2回	平成26年6月19日(木)	第2回「ひきこもり」の理解と対応② ・ひきこもりの精神医学的診断と支援について 講師 精神保健福祉センター所長 小石 誠二 ・意見交換	5人
3回	平成26年7月3日(木)	第3回「ひきこもり」の理解と対応③ ・家族支援について 講師 精神保健福祉センター所長 小石 誠二 ・意見交換	8人

(4) 「ひきこもり親の会」

開催日時	毎月第2木曜日（家族教室開催月は除く） 午後1時～3時
場所	精神保健福祉センター 集団精神療法室
内容	親の精神的安定を図り、親子関係の改善を目的として、主に心理職がグループ関わり、ひきこもる青年の理解や関わり方などの親の悩みについて話し合う。
実施回数	9回
実人数	6人
延人数	16人

3) 思春期問題連絡会議

思春期の医療、相談、教育等に関わっている関係者の代表者や学識経験者が情報や意見を交換し合い、相互の連絡調整と連携を図るために開催した。

日時	内容	出席者数
平成26年 6月18日(水)	1 各機関の代表者（担当者）の自己紹介及び各機関における近況報告 2 話題提供 ・養護教員研究会の概要について 勝山小学校 養護教諭 中村 希実子氏 ・富士見支援学校 高校生こころのサポートルーム事業開始について 富士見支援学校 教諭 丸山智加子氏	20人
平成27年 2月18日(水)	1 各機関の代表者（担当者）の自己紹介及び各機関における近況報告 2 話題提供 ・少年鑑別所の概要について 勝山小学校 養護教諭 中村 希実子氏 ・富士見支援学校 高校生こころのサポートルーム事業報告について 富士見支援学校 教諭 丸山智加子氏	17人

4) 思春期問題ワークショップ

教育や精神保健福祉などの関係者を対象とした研修会を2回開催した。

日時・場所	内容	参加者数
平成26年9月30日(火) 山梨県総合教育センター 大研修室	講義「子どもが自立できる大人に育つために ～家庭・教育・医療にできること・すべきこと～」 講師 清水医院 精神科医 神庭 靖子先生	79人
平成27年3月5日(木) 県立博物館 生涯学習室	講義「現代日本における学校教育と精神保健の二律背反 ～思春期のストレス反応予防の観点から～」 講師 信州大学医学部附属病院 子どものこころ診療部 診療教授 本田 秀夫先生	68人

### 3 薬物関連問題相談指導等

近年、我が国では、中・高校生等に覚せい剤等の乱用が広がるなど、県民の健康の保持・向上を図る上で重大な課題となっている。このような深刻化する薬物乱用を防止し、また、薬物依存者の社会復帰を促進するため薬物関連問題に対する正しい知識の普及と薬物関連問題に関する相談を開催することにより、中・高校生を対象にした正しい知識の普及および健康教育の機会とする。

#### 1) 精神科医師等による薬物乱用防止に関する講習会

日 時	場 所	対 象	内 容	参加者数
平成26年 7月18日（金）	山梨英和 高等学校	全校生徒 教職員	講演「薬物の危険性について」 講師 公立大学法人山梨県立大学 准教授 山中 達也 先生	329人
平成26年 12月2日（火）	南アルプス市立 八田中学校	全校生徒 教職員	講演「危険ドラッグの危険性について」 講師 帝京科学大学 医療科学部 教授 小島 尚 先生	257人

#### 2) 薬物関連問題相談専門研修会

日 時	内 容	講師	参加者数
平成26年 11月11日（火）	講演「ダメ。ゼッタイだけでは ダメ。ゼッタイ」	立正大学 法学部 准教授 丸山 泰弘 先生	95人

#### 3) 薬物関連に関する相談事業

薬物関連問題に対する精神科医師による相談事業の実施（予約制）

場 所 精神保健福祉センター

日 時 平成26年4月～平成27年3月

## Ⅸ 心の健康づくり推進事業・自殺予防対策事業

### 1 自殺予防対策

#### 1) かかりつけ医等心の健康対応力向上研修企画委員会

効果的な研修が実施できるよう専門家等からなる研修企画委員会を設置し、カリキュラム等研修内容について企画・立案を行った。

日 時 平成26年10月14日（火）

内 容 研修内容にかかる企画・立案 ①事業内容の選択について ②カリキュラム内容について  
構成員 山梨県医師会代表、山梨県精神科病院協会代表、山梨県薬剤師会代表、保健所代表

#### 2) かかりつけ医等心の健康対応力向上研修会

##### (1)精神保健福祉等関係者うつ病対応力向上研修会

目的：自殺による死亡数は全国で年間3万人を切ったところであるが、本県においては、ここ数年全国平均を上回っている。自殺の背景にうつ病が高い比率で占めていることが指摘されており、うつ病やうつ状態の患者は、身体症状等を訴えて精神科以外の診療科を受診し、薬局等を利用することが少なくない。そこで、うつ病患者と接する機会または発見する機会を持つことの多い薬剤師を対象に、うつ病および自殺予防に関する研修会を実施することにより、医師以外からの発見の範囲を拡大し、早期発見・早期対応を可能にし、自殺対策の一層の推進を図ることを目的とする。

日 時	場 所	内 容	参加者数
平成27年1月29日（木）	山梨県立文学館 研修室	1) 自殺の実態と国・県の自殺対策 精神保健福祉センター所長 小石 誠二 2) 自殺予防 ～うつ病ケアの多職種連携～ 特定医療法人南山会 峡西病院 院長 浅川 理	55人

##### (2)かかりつけ医等心の健康対応力向上研修会

目的：自殺による死亡数は全国で年間3万人を切ったところであるが、本県においては、ここ数年全国平均を上回っている。自殺の背景にうつ病が高い比率で占めていることが指摘されているが、うつ病やうつ状態の患者は、身体症状等を訴えて精神科以外の診療科を受診することが多い。そこで、精神科以外の診療科の医師や看護師等病院職員を対象に、うつ病および自殺予防に関する研修会を実施することにより、早期発見・早期対応および精神科医との連携を可能にし、自殺対策の一層の推進を図ることを目的とする。

日 時	場 所	内 容	参加者数
平成27年3月20日（金）	笛吹中央病院 厚生棟 会議室	1) 自殺の実態と国・県の自殺対策 精神保健福祉センター所長 小石 誠二 2) うつ病の理解と治療について ①うつ病の基礎知識 ②診断・治療 ③連携 あおぞら心療内科クリニック 院長 根本直幸	88人

## 2) 自殺事後ケア事業

### (1) 自殺事後ケア支援研修会

日 時	場 所	内 容	参加者数
平成26年 8月18日 (月)	山梨県福祉プラザ 4F大会議室	講義「子どものこころの危機への対応 ～学校で出来ること～」 講師：日本ストレスケア研究所 研究員 澤地 都志子氏	28人

### (2) 自死遺族支援者研修会

日 時	場 所	内 容	参加者数
平成26年 12月18日 (木)	山梨県福祉プラザ 4F大会議室	講義「自死遺族支援～私たちに出来る こと～」 講師 一般社団法人リブオン代表 尾角光美氏	28人

## 3) 自殺防止電話相談

自殺は「予防可能な社会的問題」とされ、相談事業のより一層の充実が必要とされている。自殺防止に特化した電話相談事業を行うことで、自殺を考えるに至った方のより危険性の高い相談に対応し自殺防止に努めるため、平成21年4月1日から国の「全国統一電話『こころの健康相談統一ダイヤル』」を受け開始された。開設時間は祝祭日、年末年始を除く、月曜日から金曜日の午前9時から午後4時までとなっている。

なお、火曜日～日曜日の午後4時～午後10時が、「山梨いのちの電話」に委託されている。

平成26年度の年間相談件数は332（うち時間外18件）であった。

## 4) 自死遺族相談

自死遺族となった場合、自身だけで回復することが困難なことが多く、遺族が抱える個別の複雑な背景を十分に理解した上で、保健、医療、福祉、心理、経済、法律等の様々な問題に対して、多様な側面から支援し、心理的影響等を緩和することが求められる。当センターでは傷つき孤立しがちな遺族の心理的および社会的な回復を支援することを目的に、平成21年7月から自死遺族相談窓口を開設している。開設時間は毎月第3水曜日の午後1時から4時までとなっている。

## 5) 自殺再企図防止ケア事業

平成21年度に山梨県地域自殺対策緊急基金を創設し、地域における自殺対策強化について緊急に対応すべき事業として平成22年度より、県の看護協会に委託し、県立中央病院（3次救急）を対象に自殺再企図防止ケア事業を実施した。

4年間の実績から、3次救急での自殺防止のための支援の充実や地域の関係者の自殺未遂者支援の意識向上に繋がるなど、自殺未遂者支援は最重要課題として、平成26年度から県看護協会から精神保健福祉センターに移管され、実施することになった。

### (1)自殺再企図防止ケア事業（三次救急医療機関版）

救命救急センターに搬送された自殺未遂者及び家族等に対して自殺未遂となった諸問題の解決に向けて相談支援を行うことにより、自殺再企図を防止することを目的に実施した。

- ・派遣要請件数 9件
- ・事例検討会 3回

### (2)自殺再企図防止ケア事業（二次救急医療機関版）

2次救急医療機関に搬送された自殺未遂者及び家族等に対して自殺未遂となった諸問題の解決に向けて相談支援を行うことにより、自殺再企図を防止することを目的に実施した。

- ・派遣要請件数 0件（相談事例1名）
- ・情報連絡会回数 5回
- ・研修会開催状況 2回

（ 6 ） の (2) の自殺対策人材育成事業を参照 ）

## 6) 自殺対策人材育成事業

自殺対策に関わる関係機関の職員等を対象として、自殺対策の施策に関することや自殺未遂者等のハイリスク者支援に関することやその他自殺対策を効果的に進めるための必要な知識や対応に関する研修会を開催し、自殺対策の中心的な役割を担う人材の資質向上することを目的に実施した。

### (1)自殺対策企画研修会

<地域で自殺対策を行なっている職員向け>

日時：平成26年6月30日（月）

場所：山梨県立博物館 生涯学習室

対象：町村・保健福祉事務所関係職員

参加人数：24人

内容

#### ①「山梨県の自殺対策の現状と課題」

講師：精神保健福祉センター所長 小石 誠二

#### ②「山梨県内における自殺対策事業の概要」

講師：障害福祉課 技師 竹川彩加氏

#### ③「自殺対策の組み立てと評価」

講師：国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所自殺対策予防総合対策センター  
自殺実態分析室研究員 山内貴史氏

#### ④「グループワーク」

### (2)自殺再企図防止ケア事業関係職員研修会

<事業対象二次救急医療機関向け>

第1回

日時：平成26年5月22日（木）

場所：甲府共立病院会議室

対象：甲府共立病院・保健福祉事務所・障害福祉課・健康増進課等関係職員

参加人数：44人

## 内容

### ①「山梨県における自殺の実態と課題」

講師：精神保健福祉センター所長 小石 誠二

### ②「なぜ自殺未遂者ケアなのか：未遂者への理解と対応」

講師：横浜市立大学医学群 教授 河西 千秋

## 第2回

日時：平成26年7月28日（月）

場所：甲府共立病院会議室

対象：甲府共立病院（医師・看護師・臨床心理士等）・中北保健福祉事務所・障害福祉課等関係職員

参加人数 25人

## 内容

### ①「自殺再企図防止ケア事業（2次救急医療機関）の概要」

講師：精神保健福祉センター 副主幹 秋山盛治

### ②「自殺未遂者支援の実際～看護の立場から～」

講師：山梨県立中央病院 主任看護師 塚本圭子氏

### ③「自殺未遂者支援の実際～医師の立場から～」

講師：山梨県立中央病院 救命救急センター 医師 加藤頼子氏

## (3)自殺未遂者関係職員研修会

### <関係職員向け>

#### 第1回

日時：平成26年10月28日（火）

場所：富士吉田合同庁舎大会議室

対象：富士・東部保健福祉事務所管内市町村・社会福協議会・居宅介護支援事業所・精神科病院等関係職員

参加人数：26人

## 内容

### ①「自殺の実態・未遂者ケアの必要性と意義」

講師：精神保健福祉センター所長 小石 誠二

### ②「自殺未遂者への対応と連携～2次救急医療機関の立場から～」

講師：甲府共立病院 心理相談室長 齊藤徳仁氏

### ③フリートーク

#### 第2回

日時：平成26年12月19日（金）

場所：山梨県立文学館研修室

対象：中北保健福祉事務所・峡北支所管内市町村・精神科病院及びクリニック・2次救急病院・相談支援事業所・訪問看護ステーション・甲府警察署・甲府地区消防本部・甲府公共職業安定所等関係職員

参加人数 50人



## 内容

### ①「自殺対策の必要性と意義」

講師：精神保健福祉センター所長 小石 誠二

講師：峡西病院 院長 浅川 理氏

### ②「自殺未遂者への対応と連携～2次救急医療機関の立場から～」

講師：甲府共立病院 心理相談室長 齊藤徳仁氏

### ③フリートーク

## 7) 多重債務者等心の健康相談事業 月2回（第2・3火曜日午後）

法テラス山梨で実施している弁護士無料法律相談に合わせて心の健康相談を実施した。

・平成26年度相談実績 30件

## 8) 民間団体等関係機関連携推進事業

官民が一体となった自殺防止対策を推進するため、民間団体等の育成を行い、自殺防止のための活動の活性化と公的機関と民間団体等の自殺予防ネットワークの強化を図ることを目的に実施した。

・研修会 1回

・連絡会議 1回

## 9) その他自殺関連事業への技術的支援について

### ○自殺予防推進大会

自殺予防週間の一環として、県民に自殺や精神疾患についての正しい知識を普及啓発し、偏見をなくしていくとともに、命の大切さや自殺予防のための対応方法等について、県民の理解を促進することを目的に、自殺予防推進大会を開催しており、センターでは、企画・運営等の技術的支援をしている。

## 2 「こころの電話相談室」－ストレスダイヤラー

「心の健康づくり推進事業」の一環として、「こころの電話相談室－ストレスダイヤラー」を行っている。電話相談開設時間は、月曜日から金曜日の午前9時から午後4時までとなっている。

なお夜間相談については、平成10年度より「精神科救急情報センター“心の健康相談窓口”」へ移行したが、平成26年度より「精神科救急情報センター」が「精神科救急受診相談センター」として24時間化され山梨県から委託された。それに伴い、「精神科救急情報センター“心の健康相談窓口”」は「夜間ストレスダイヤル」として平成26年から委託され、毎週木曜日午後4時～8時まで電話相談が行われる事になった。

### 1) ストレスダイヤル職員研修会

困難事例の共有を行う研修会を2回開催した。

### 2) ストレスダイヤル利用状況

#### (1) 相談件数・相談対応時間

平成2年度より始まった「ストレスダイヤル」も年々相談件数が増加している。

平成18年度より、事務所内の電話相談とストレスダイヤルの電話相談の件数を分けて集計している。

1ヶ月平均154件、一件の平均対応時間は17.85分であった。

#### (2) 月別相談件数

(件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談件数	166	157	168	132	143	165	174	134	126	152	148	179	1844

#### (3) 相談内容別件数

	老人精神保健	社会復帰	アルコール	薬物	思春期	心の健康づくり	うつ状態	その他
相談数(件数)	253	1,111	1	0	1	346	71	40
割合(率)	13.7%	60.2%	0.1%	0.0%	0.1%	18.8%	3.9%	2.2%

#### (4) 相談対象者性別件数

	男性	女性	不明
相談数(件数)	731	1108	1
割合(率)	39.6%	60.1%	0.1%

#### (5) 相談者別件数

	本人	家族	その他 (保健所・市町村役場・病院・学校等)
相談数(件数)	1,828	10	1
割合(率)	99.1%	0.5%	0.1%

#### (6) 処理内容

	助言	情報提供	カウンセリング
相談数(件数)	7	16	1,807
割合(率)	0.4%	0.9%	98.0%

3) 夜間ストレスダイヤル利用状況

(1) 相談件数・相談対応時間

「精神科救急情報センター“心の健康相談窓口”」は「夜間ストレスダイヤル」として平成26年から委託され、毎週木曜日午後4時～8時まで電話相談が行われる事になった。

1ヶ月平均19.7件、一件の平均対応時間は12.85分であった。

(2) 月別相談件数

(件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談件数	20	39	20	22	11	16	22	19	10	21	17	19	236

(3) 相談内容別件数

	老人精神 保健	社会復帰	アルコール	薬物	思春期	心の健康 づくり	うつ状態	その他
相談数(件数)	15	31	0	0	1	140	11	18
割合(率)	6.4%	13.1%	0.0%	0.0%	0.4%	59.3%	4.7%	7.6%

## **X** 子どもの虐待再発予防対策事業

### **1** 親子のこころ相談室

児童虐待の再発及び発生を予防する上で、保護者等にメンタルヘルス上の問題に対する支援が必要な場合や、多くの関係機関による支援が必要な児童及び保護者に対し、家族へのカウンセリングや心理療法等を行った。

平成 26 年度相談総件数：73 件（実数 9 人）

# XI 精神科救急情報センター窓口運営事業

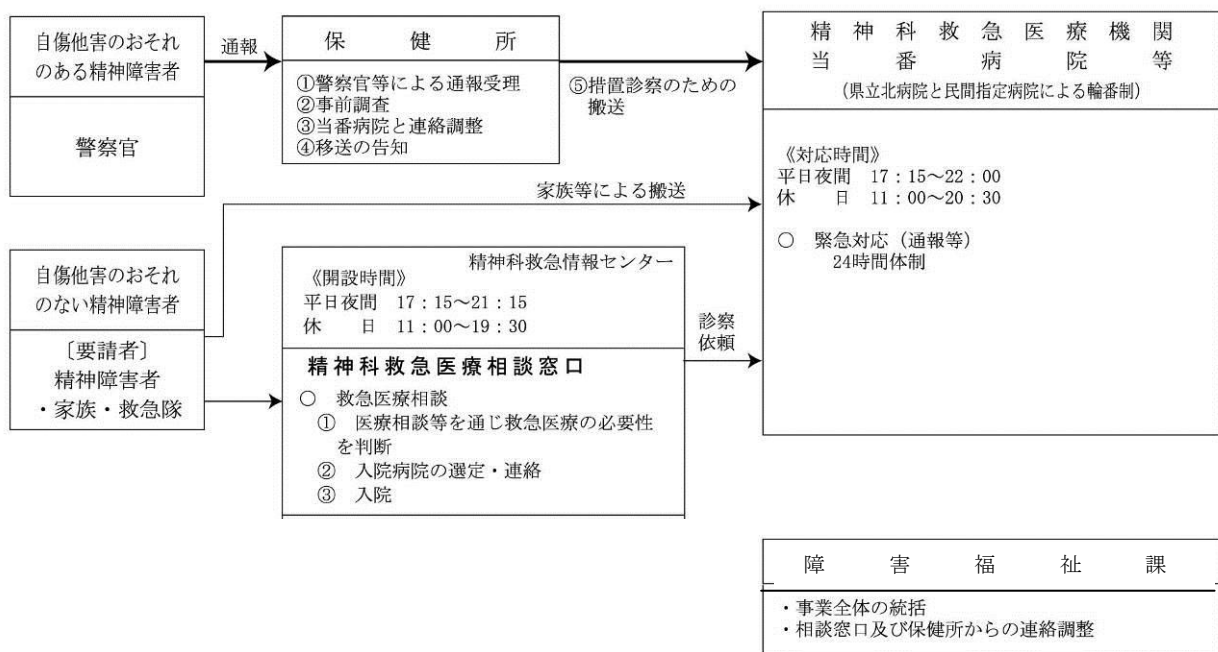
## 1 概 要

平成10年4月20日から夜間・休日の医療体制を確保する「精神科救急医療システム」を開始した。

この業務は、精神疾患の急激な発症や精神症状の悪化など早急に適切な精神科医療を必要とする者に対して相談に応じ、そのうえで状況によっては医療機関を紹介するとともに、心の健康相談から専門的な医療相談まで併せて実施し、県民の心の健康づくりを推進することを目的としている。

### 〈精神科救急医療相談の流れ〉

山梨県精神科救急医療事業



——→ 情報の流れ

## 2 精神科救急医療体制（精神科救急情報センター）

### 1) 精神科救急医療相談窓口

内 容 精神疾患の急激な発症、悪化のために、早急に医療が必要な相談

協力病院 県内全域を1つの精神科救急医療圏として実施し、県立北病院及び精神科病院協会加盟の病院の輪番制をとっている。

開設時間 平日夜間 午後5時15分～午後9時15分

土日祝祭日 午前11時～午後7時30分

年末年始祝日も開設（時間帯は休日時間で対応）

電話番号 055-254-3119

### 3 実施状況

#### 1) 精神科救急医療窓口職員研修会

##### (1) 精神科救急医療相談窓口職員研修会

開催年月日	内 容	参加者数
平成25年 7月24日 (水)	職員研修第1回 (事業実績の報告、困難事例の共有)	5人

#### 2) 精神科救急医療相談の利用状況について

##### 平成25年度精神科救急医療電話相談実績

( ) 内 26年度実績

	相談総件数
・精神科救急医療相談	138 (338)

##### (1) 平成26年度精神科救急医療相談

###### ① 月別相談件数の状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談件数		39	56	25	30	37	26	30						243
性別	男	9	26	19	14	17	14	21						120
	女	27	29	5	13	16	10	8						108
	不明	3	1	1	3	4	2	1						15

###### ② 相談者の区分状況

	本人	家族	医療機関	警察署	救急隊	保健所	その他	計
件数	114	67	11	13	5	17	16	243
比率	46.9	27.6	4.5	5.3	2.1	7.0	6.6	100

###### ③ 相談対象者の年齢別状況

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明	計
件数	0	5	24	23	61	11	8	18	93	243
比率	0.0	2.1	9.9	9.5	25.1	4.5	3.3	7.4	38.3	100

###### ④ 相談者の居住地管轄保健所別状況

	中北	峡北支所	峡東	峡南	富士・東部	県外	不明	計
件数	105	18	14	9	18	8	71	243
比率	43.2	7.4	5.8	3.7	7.4	3.3	29.2	100

###### ⑤ 対応状況

	電話相談のみ	当番病院紹介	一般救急紹介	他機関紹介	警察保護依頼指示	他精神科紹介	その他	計
件数	182	49	8	2	0	1	1	243
比率	74.9	20.2	3.3	0.8	0	0.4	0.4	100

⑥ 相談内容

	受診相談	病気の相談 (薬等)	社会復帰の相談	社会制度の相談 (経済問題等)	ストレス 相談	その他	計
件数	137	30	0	0	59	17	243
比率	56.4	12.3	0	0	24.3	7.0	100

⑦ 診断名の内訳

ICD-10	F 0	F 1	F 2	F 3	F 4	F 5	F 6	F 7	F 8	F 9	てん かん	その他	不明	受診歴 無し	計
件数	5	5	61	31	14	1	0	2	1	1	1	0	84	37	243
比率	2.1	2.1	25.1	12.8	5.8	0.4	0	0.8	0.4	0.4	0.4	0	34.6	15.2	100

⑧ 相談時間状況

・平日夜間

	開始～6時	6時～7時	7時～8時	8時～9時	9時～終了	合計
件数	21	26	35	32	8	122
比率	17.2	21.3	28.7	26.2	6.6	100

・休日

	11時～ 12時	12時 ～1時	1時～ 2時	2時～ 3時	3時～ 4時	4時～ 5時	5時～ 6時	6時～ 7時	7時～ 終了	合計
件数	39	12	6	9	12	11	12	13	7	121
比率	32.2	9.9	5.0	7.4	9.9	9.1	9.9	10.7	5.8	100

※平成26年11月からは、山梨県精神科救急医療事業の24時間化に向けた見直しにより、当センターでの相談は終了した。

## XII 精神医療審査会

### 精神医療審査会に関わる事務

精神医療審査会は、精神障害者の医療に関し学識経験を有する者、法律に関し学識経験を有する者及びその他の学識経験を有する者のうち、県知事が任命した者から構成され、次の審査を行っている。

- ①精神病院の管理者から医療保護入院の届け出、措置入院者及び医療保護入院者の定期病状報告があったときに、当該入院中の者についてその入院の必要があるかどうかに関する事。
- ②精神病院に入院中の者又はその保護者等から、退院請求又は処遇改善請求があったときに当該請求にかかる入院中の者について、その入院の必要があるかどうか、又はその処遇が適当であるかどうかに関する事。

平成14年4月1日より、審査会の審査に関する事務の専門性に配慮するとともに、審査の客観性、独立性の一層の確保を図るため、審査会の遂行上必要な事務を精神保健福祉センターで行うこととなった。

平成18年4月1日より、書類の收受及び一部結果通知事務等についても精神保健福祉センターで行うこととなった。

#### 1) 報告書類の審査件数及び結果

(平成26年度)

	定期病状報告書		医療保護入院の 入院届
	措置入院	医療保護入院	
審査件数	14	704	1455
現在の入院形態での入院が適当	14	704	1455
他の入院形態への移行が適当	0	0	0
入院継続不要	0	0	0

#### 2) 退院等の請求

(平成26年度)

退院請求	
受理件数	21
審査件数	11
現在の入院形態での入院が適当	10
他の入院形態への移行が適当	1
入院継続不要	0
取り下げ	3
その他(審査が年度をまたいだ)	7

(平成26年度)

処遇改善請求	
受理件数	0
審査件数	0
適当	0
不适当	0
取り下げ	0



## XIII 自立支援医療費（精神通院医療）・精神障害者保健福祉

### 手帳交付事務

自立支援医療費（精神通院医療）は、在宅精神障害者の医療の確保を容易にするために昭和40年に創設された通院医療費公費負担制度の後、平成18年4月の障害者自立支援法施行によって、従来異なる法の下にあった三障害それぞれへの公費負担制度が統一されることとなった。また、精神障害者保健福祉手帳は、一定の精神障害の状態にあることを証明する手段となることで、手帳交付者に対する各種福祉サービスを受けやすくし、精神障害者の自立と社会参加の促進を図ることを目的に平成7年に創設された。精神疾患を有する者で、長期にわたり日常生活又は社会生活に制約がある者に対して、審査会において等級が判定され、交付される。

これらの支給認定、等級判定の審査会については平成14年より、交付までの一連の業務については、平成19年から当センターにおいて行っている。

	審査件数 (延べ件数・再審査含む)	承認件数
手帳（診断書）	2,246	2,231
手帳（年金証書の写し）	1,414	1,396
手帳と同時申請の 自立支援医療 （精神通院）	1,211	1,211
自立支援医療 （精神通院）	10,159	10,159

自立支援医療（精神通院）受給者証	9,490
精神障害者保健福祉手帳	6,379

※平成27年3月31日現在の所持者数

平成二十六年度

精神保健福祉センター  
所報

山梨県立精神保健福祉センター